

神奈川県陸上競技協会 審判講習会

2024年度 日本陸上競技連盟 競技規則修改のポイント

神奈川県陸上競技協会
競技運営委員会審判部

1

《修改1》 文言の修正

①「国際競技会」⇒ワールドランキングコンペティション
※昨年、競技会名の修正が不十分だった点を修正した。

②条文番号の変更等

例：CR18.5(審判長による警告・除外) ⇒新TR7.1
TR7.1(競技規則違反時の失格の扱い) ⇒新TR7.2
CR31(世界記録)、CR32(世界記録種目)、
CR33(U20世界記録種目)、CR34(室内世界記録種目)
CR35(U20室内世界記録)

⇒新CR31(世界記録)、
新CR32(世界記録とU20世界記録種目)

2

《修改2》 競技会役員の名称変更

CR3.1
ITO's ⇒ ワールドアスレティクスレフェリー
(WAレフェリー)
国際競歩審判員 ⇒ ワールドアスレティクス競歩審判員
(WA競歩審判員)
国際スターター ⇒ ワールドアスレティクススターター
(WAスターター)
国際写真判定員 ⇒ ワールドアスレティクス写真判定員
(WA写真判定員)

CR8 CR9
JTO's、JRWJ's の名称は変更なし

3

《修改3》 競技会規則の追加

CR25.4 スタートリスト・結果に用いる略号

《追加》 抽選による次ラウンドへの進出 qD

《追加》 抗議中の競技 P

CR25.5 TIC

バーチャルTIC(Web方式TIC)の設置

⇒〔国内〕主催者判断で設置可能
(個別検討要) インフラ整備、関係者への連絡方法、
運用時間 等

4

《修正4》記録分類の変更①

CR31 世界記録

現在 「屋外競技場での記録」と「室内競技場での記録」



新 「400mトラックでの記録」と
「200m〈ショート・トラック〉での記録 (sh)」
※競技場の「屋外」「室内」は区別しない



現行
世界記録
U20世界記録
室内世界記録
U20室内記録



修正後
世界記録
U20世界記録
世界記録 (sh)
U20世界記録 (sh)

5

CR31 世界記録として認められる種目

種目	男子	女子	U20 男子	U20 女子	計時方法
	50m	○	○	-	
60m	○	○	○	○	写
100m	○	○	○	○	写
200m	○	○	○	○	写
200m sh	○	○	○	○	写
400m	○	○	○	○	写
400m sh	○	○	○	○	写
800m	○	○	○	○	写
800m sh	○	○	○	○	写
1,000m	○	○	○	○	写・手
1,000m sh	○	○	○	○	写・手
1,500m	○	○	○	○	写・手
1,500m sh	○	○	○	○	写・手
1マイル	○	○	○	○	写・手
1マイル sh	○	○	○	○	写・手
2,000m	○	○	-	-	写・手
3,000m	○	○	○	○	写・手
3,000m sh	○	○	○	○	写・手
5,000m	○	○	○	○	写・手
5,000m sh	○	○	○	○	写・手
10,000m	○	○	○	○	写・手
1時間	○	○	-	-	写・手
3000m障害	○	○	○	○	写・手

6

《修正4》記録分類の変更②

直走路でしか認められない競技（屋外・室内共通）

50m、60m、100m、50mH、60mH、100mH、110mH

記録公認の風の条件（200m以下の競走）

屋外の競技場（ショート・トラックの200mを除く）

200m : 必要

（ショート・トラックの200m）

200mshのみ : 不要

室内の競技場

: 不要

7

《修正4》記録分類の変更③

CR34 日本記録

世界記録の分類変更に合わせて、日本記録の分類を変更

現行
日本記録
U20日本記録
U18日本記録
室内日本記録
U20室内記録
U18室内記録



修正後
日本記録
U20日本記録
U18日本記録
日本記録 (sh)
U20日本記録 (sh)
U18日本記録 (sh)

8

CR34 日本記録・公認記録として認められる種目

種目	男子	女子	U20	U20	U18	U18	日本記録 計時方法	公認 男子	公認 女子	公認記録 計時方法
			男子	女子	男子	女子				
50m	○	○	-	-	-	-	写	○	○	写-手
55m	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
60m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
100m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
150m	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
200m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
200m sh	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
300m	○	○	-	-	-	-	-	○	○	写-手
300m sh	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
400m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
400m sh	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
500m	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
500m sh	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
600m	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
600m sh	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
800m	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
800m sh	○	○	○	○	○	○	写	○	○	写-手
1,000m	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
1,000m sh	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
1,500m	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
1,500m sh	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
1747L (T)	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
1747L (T) sh	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
2,000m	○	○	-	-	-	-	写-手	○	○	写-手
2,000m sh	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
3,000m	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
3,000m sh	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
2274L	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
2274L sh	-	-	-	-	-	-	-	○	○	写-手
5,000m	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
5,000m sh	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
10,000m	○	○	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手
15,000m	○	-	-	-	-	-	写-手	○	○	写-手
1時間	○	○	-	-	-	-	写-手	○	○	写-手
2000m障害	-	-	○	○	○	○	写-手	○	○	写-手

9

《修改4》記録分類の変更④

CR34 日本記録

新たな公認種目（500m・600m等）は施設用器具委員会による検定が必要なものもあり

⇒どの競技場でも新たな「公認種目」の競技ができるわけではない

10

公認種目設定による対応

【標識タイル設置の考え方】

◎公認記録の種目を設置する時には検定を要する。

- 50m・55m・60mのスタートライン、ハードル位置、150m・500m・600m・1マイル・2マイルのスタートラインは、設置を希望するところのみ設置する。

標識タイル（150m、600mを除く）を設置する。

これらのスタートラインはその都度設置する。

- 300mHは別途定めた標識方法とする。
- 150mのスタートラインは、300mHで別途定めた標識方法とする。（300mHのハードル位置が設置している時は、その標識を利用する）スタートラインはその都度設置する。
- 500mのスタートは新たな標識タイルを設置する。
- 600mのスタートはメドレーリレーの標識タイルを利用する。（新たな標識は入れない）

【競技会での対応】

- スタートラインはその都度設置をする。
- 150mスタート 300mHのハードル4台目と同じ。
- 500mスタート 新たな標識タイルが必要。（スタートからフィニッシュまでセパレート）
- 600mスタート メドレーリレースタートと同じ。
（300m走って、通常の800mのブレイクラインからオープン）

11

《修改5》同時申込

TR4.3 同時申込

ワールドランキングコンペティション（WRK）では、原則を適用する

TR4.3 試技を行うべき順序の際に競技者不在の場合は、試技時間が過ぎたら「パス扱い」とする

〔国内〕HJおよびPVでは、事前に申告すれば「無効試技扱い」とすることができる

パス : その高さを跳ぶことはできない

無効試技: その高さの1回目（2回目）を跳ぶことはできないが、2回目（3回目）は跳ぶことができる

12

例：競技者Bと競技者Cは走高跳と100mの2種目に出場。
走高跳194cmの試技と100mの競技時間が重なったため、審判員にその旨を告げて100mのスタート地点に向かった。走高跳ピットに戻ったのは3回目の試技がおこなわれる時であった。

〔国内〕 HJおよびPVでは、事前に申告すれば「無効試技扱い」とすることができる

	190	194	198	201	記録
A	○	○	○	×××	1m9 8
B	○	××	○	×××	1m9 8
C	○	○	××	××	1m9 4

194cmの1回目および2回目は無効試技扱いとなり、3回目の試技から競技を再開した。

TR4.3 試技を行うべき順序の際に競技者不在の場合は、試技時間が過ぎたら「パス扱い」とする

	190	194	198	201	記録
A	○	○	○	×××	1m9 8
B	○	-	○	×××	1m9 0

194cmはパス扱いとなり、198cmの試技から競技を再開した。

13

《修改正6》参加の拒否

国内でも適用可能に変更（主催者判断）

「TR4.4.1~4.4.3に該当する競技者は、正当な理由がない場合を除き、当該行為があったら、それ以降の全種目に参加できない」

- TR4.4.1 当該種目に出場することの最終確認がなされていたにもかかわらず出場しなかった
- TR4.4.2 予選や準決勝等でそれ以降に出場する資格を得たのに出場しなかった
- TR4.4.3 誠実に全力を尽くして競技しなかった

適用する場合は、要項・注意事項等に記載
競技会の性格（例：対校戦）によっては、適用が難しいケースあり

14

《修改正7》競技用靴底厚変更 2024年11月1日から変更

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、本規程10.3および10.4に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点）。
道路競技（競走・競歩）	40mm	
クロスカントリー	20mmスパイクシューズ または 40mmノン・スパイクシューズ	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは20mmを超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは40mmを超えてはならない。
マウンテンレースとトレイルレース	制限なし	

15

《修改正8》許可される助力



要件の緩和

録画再生機器や録画映像は録画映像を提供する者のすぐ近くの位置（コーチボックス近辺）であれば、競技区域内に持ち込むことが認められる

- 許可：競技者が手に持って、操作して確認すること
- 禁止：競技者自身が録画機器等を招集所から持ち込むこと
映像確認後に競技場所等へ再生機器を持ち込むこと

「違反にならない助力」の一つとして認められるのであり、「手に取って見られるようにしなければならない」ということではない
※競技場の形状によっては見ることができない

16

《修改正9》競技中の抗議①

TR8.4 トラック種目のスタートに関する現場での抗議
SIS使用時のみ、国内でも適用可能に変更（主催者判断）

「抗議中」として競技することを認めた場合

- 競技者に「赤白カード（斜め半分）」を提示
 - 関係者に情報共有
- 適用する場合は、要項・注意事項等に記載



17

《修改正9》競技中の抗議②

TR8.5 フィールド種目の現場での抗議
国内でも適用可能に変更（主催者判断）

- 抗議を認める場合は、記録の保全を徹底
- 記録用紙に「P」を記入する

適用する場合は、要項・注意事項等に記載

18

《修改正10》スタートの中止事由の見直し①

（現行）「On your marks（位置について）」または
「Set（用意）」の合図の後、音声や動作、その他の
方法で他の競技者の妨害をした時

（修改正後）「On your marks（位置について）」または
「Set（用意）」の合図の後、音声や動作、その他の
方法で他の競技者の妨害をし、
その結果、その選手が他の競技者の不正スタートを生じさせた時

現状、「ピクつき（局所的な動き）」に対して
「警告（イエローカード提示）」としている運用の見直し

19

《修改正10》スタートの中止事由の見直し②

撃ち戻されるスタート

- ①不正スタート（または不正スタートの疑い）があった時
- ②ある競技者が動き、これにより他の競技者に不正スタートを生じさせた時
- ③（SIS使用時）オートリコールが作動した時
- ④外的要因があった時（機器の不具合/雑音など）

撃ち戻さないスタート

局所的な動きや腰・頭の上下動があっても、
その後の号砲時には静止していた時

20

《修改正10》スタートの中止事由の見直し③

(現行) 局所的な動きや、腰を上げた後に下げて止まる動き

⇒ スタートのやり直し

⇒ 動きの見られた競技者に

注意またはYC (イエローカード)

(新) a. ⇒ やり直さず静止を確認した時点で号砲

b. ⇒ 局所的な動きにより、他の競技者が不正スタートした
⇒ 不正スタートを誘発させた競技者に

YC (イエローカード)

21

《修改正10》スタートの中止事由の見直し④

c. ⇒ 体が静止しない

⇒ **グリーンカード**を提示し、スタートをやり直し

d. ⇒ 他の競技者に悪影響が出そうなほど静止に時間がかかる

⇒ 注意またはYC (イエローカード)

※On your marks後の気合を入れる等の大声は問題ない

22

《修改正11》レースにおける妨害

現TR17.2.1 ⇒ 新TR17.1.1

別の競技者が妨害行為を**意図的に引き起こした**と審判長が判断した場合・・・



別の競技者が妨害行為の**責任がある**と審判長が判断した場合・・・

違反者が**意図的に**行ったかどうかに関係なく、審判長が判断する

23

《修改正12》風力計測

現TR17.10、17.12

屋外でおこなわれる50m、55m、60m競走 (含むハードル) における風力計測の計測位置・計測時間を明示

計測位置 フィニッシュライン手前 30m

計測時間 スタートから5秒間

※室内は不要

24

《修改正13》シードレーン①

TR20.4 種目により異なるシードレーンとする

TR20.4.3 直線種目（100m、100mH、110mH等）

上位グループ 3・4・5・6レーン

中位グループ 2・7レーン

下位グループ 1・8レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・中・上・上・上・上・中・下

TR20.4.4 200m

上位グループ 5・6・7レーン

中位グループ 3・4・8レーン

下位グループ 1・2レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・下・中・中・上・上・上・中

25

《修改正13》シードレーン②

TR20.4.5 400m競走、スタート時にレーンを使用する
800m競走、4×400mRまでのリレー競走

上位グループ 4・5・6・7レーン

中位グループ 3・8レーン

下位グループ 1・2レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・下・中・上・上・上・上・中

〔国内〕TR20.4.3～20.4.5の考え方に加え、以下の考え方を
適用しても良い（現行の方法）

上位グループ 3・4・5・6レーン

中位グループ 7・8レーン

下位グループ 1・2レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・下・上・上・上・上・中・中

26

《修改正14》リレーオーダー用紙提出締切り時間

TR24.11

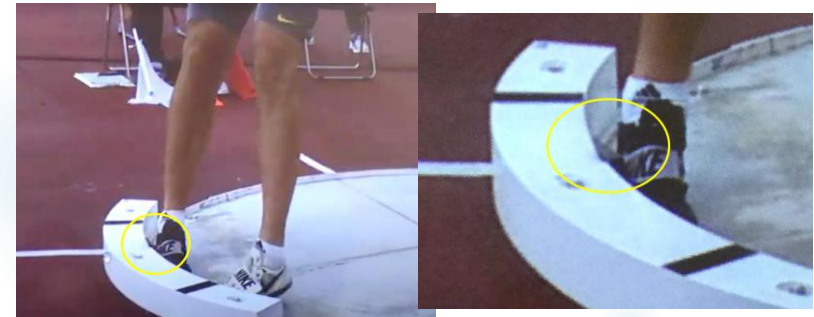
〔国際〕各ラウンド第1組のFirst call Time の1時間前までに申告
⇒ 各ラウンドの各組のFirst call Timeまでに申告

〔国内〕変更なし
(各ラウンド第1組の招集完了時刻の1時間前までに申告)

27

《修改正15》フィールド競技の跳躍時・投てき時の 靴紐等の扱い①

TR30.1.1、TR32.14



28

《修改正15》フィールド競技の跳躍時・投てき時の靴紐等の扱い②

TR30.1.1

跳躍競技：靴本体ではなく、靴紐など靴の緩んだ部分が踏切線の垂直面より前に出たとしても、無効試技とは見なさない

TR32.14

投てき競技：靴の緩んだ部分（靴紐など）や衣服、または身体につけていたその他のアイテム（帽子など）が、投てき開始時、投てき中または投てき後に、足留材上部に触れたとしても、無効とは見なさない

29

問題 砲丸投の競技。投てき時に、被っていた帽子が足留材の前方に落ちた。競技者は投てき後、自分で帽子を拾い、サークル後方から出た。これは有効試技か、無効試技か。



30

《修改正16》WRkで使用する投てき物①

TR32.1

WRk大会で使用する用具（投てき物）は、WAが定める現行の規格に合致したものでなければならない。投てき物はWAが認証した物のみとする。

〔国内〕ワールドランキングコンペティションではWA認証品のみを使用する。但し、WA認証品かどうかの証明は、持込んだ競技者が行う。

31

《修改正16》WRkで使用する投てき物②

TR32.1

- 「WA認証品だが、JAAF非検定品」の扱い ⇒ 検査合格であれば使用可
個人持込投てき物として、TR32.2に従い検査する
- 競技場備付の投てき物(JAAF検定品)であっても、WA非認証品は使用不可
- 競技場によっては「競技場備付投てき物」のみでWRkが開催できない
懸念あり

主催者として留意すべきこと

- WRk申請をする前に、競技場に「WA認証投てき物」が備え付けてあるか確認
- JAAF非検定品の検査を行う公式計測員や計測器具の確保

32

《修改正17》個人持込投てき物の数

TR32.2

〔国際〕2個まで持込可能（主催者用意と同じモデルでも可）

〔国内〕変更なし

（主催者用意のモデル以外なら、2個まで持込可）

国内でも〔国際〕を適用可能（主催者判断）

日本選手権やWRk等

適用することは競技会ごとに主催者が判断

33

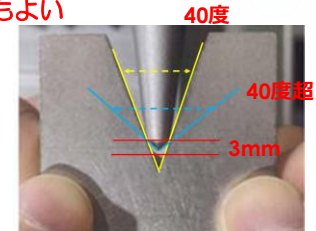
《修改正18》やりの穂先の角度①

TR38.7

先端部の角度は40°を超えないものとする

〔注意〕先端に安全対策がなされた構造のやりの場合、

金属製頭部の先端から3mmまでは、
先端の角度を無視してもよい



34

安全・安心 infomation

～アスリートが安心して競技に取組める環境づくりを目指して～

- 1) 迷惑撮影の実態と対策
- 2) リレー/駅伝のユニフォームのルール（選択制ユニフォーム）
- 3) ロードレースにおける助力の認識
- 4) 運営車両の安全安心



35

1. 迷惑撮影の実態と対策

加盟団体の協力団体へ3年ぶりに迷惑撮影に関するアンケートを実施（42団体回答 1/30時点）

迷惑撮影対策実施率
100%

- 一方で、**約70%**が迷惑撮影に関する不審者の対応を経験。（直近2年）
- 警察案件に発展したことがあると回答した団体は、**約40%**に上る。（直近2年）
- コロナ禍前後での不審者（迷惑撮影）の **増減ナシ**。

実施している対策

- アナウンスによる注意喚起 (39)
- 競技役員・スタッフによる巡回 (38)
- 場内への啓発サイン・看板設置 (34)
- 大会映像での注意喚起 (31)
- プログラム広告 (29)
- カメラ持ち込み申請 (19)
- その他
 - ・入場者の制限
 - ・警察・犯罪専門スタッフによる巡回
 - ・カメラ撮影エリアの設定
 - ・QRコードによる通報フォーム設置
 - ・大型バナーの設置

大会規模や開催地の状況などにより、
実態として対策を実施。
コロナ前と比較し、警察や専門家
との連携した活動も増えていました。

不審者が多い世代（対象）

- 高校生 (22)
- 一般 (11)
- 大学生 (3)
- 小学生 (1)

不審者が多い種目（対象）

- トラック種目 スタート地点 (19)
- 走幅跳・三段跳 (10)
- 走高跳 (7)
- その他
 - ・女子セパレート着用種目
 - ・フィニッシュ地点

特に女子高校生トラック種目
や跳躍種目は注意が必要

不審者が多い競技以外の場所

- 表彰式 (5)
- フィニッシュ後 (4)
- トイレ (3)

その他

- ・競技前の着脱時
- ・選手紹介のタイミング
- ・競技中いつでも
- ・スタンド
- ・補助競技場・サブトラ
- ・選手陣地（テント）

競技以外で事例の多い3項目について
は、対策が必要（次回）



36

1. 迷惑撮影の実態と対策

加盟団体・協力団体へ3年ぶりに迷惑撮影に関するアンケートを実施（42団体回答 1/30時点）

引き続きのお願い事項

- ▶ **会場整備・啓発活動の徹底**
 - ・会場内への注意喚起ポスターの掲示
 - ・大型ビジョンおよび会場アナウンスでの呼びかけ
 - ・大会プログラムへの注意喚起広告の掲載
 - ・スタッフ/審判による会場巡回（特に、女子短距離種目、跳躍種目）
 - ・トイレへの啓発ポスター・チラシ掲示
- ▶ **競技運営面の工夫**
 - ・表彰式での所属ウェアやTシャツ着用の推進
 - ・レース後の速やかな誘導と、安全な導線の確保（荷物運搬が無い場合、レース後にユニフォーム姿のまま歩いて安全な導線の確保）
- ▶ **地域管轄警察署との連携**
 - ・開催期間中の定期的な会場巡回
 - ・警察署名の入った盗撮禁止看板の制作



陸連主催大会での取り組み例

- ▶ 1階層通路下での撮影禁止（スマホ・タブレットのみ可）
 - ・GGP/日本選手権での取り組み
 - ・完全撮影NGとしないことでファンと共存する形をとっている
 - ・選手至近距離での撮影をなくすことで、心理的負担を軽減
- ▶ 100mスタート後方の撮影禁止エリア設定
- ▶ 通報フォーム（QRコード）設置
- ▶ アスリート委員会との取り組み（リボン活動）



- ▶ イートバックによる対策の周知
- ▶ 全安心に関する特設サイトの公開（2024年春OPEN予定）

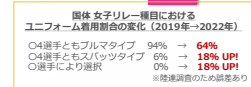
2. リレー／駅伝のユニフォームのルール

（選択制ユニフォーム）

- ▶ **【背景】**
- ▶ ○近年、迷惑撮影（盗撮）の問題が拡大しており、選手自身が自らの身を守る意識を持っている。
- ▶ ○自身の身を守る観点から、「ユニフォームの形式（セパレート・ブルマ・スパッツなど）を選択したい」と考えている選手が一定数いることが、アンケート回答等から判明した。
- ▶ →「リレー種目に出場の際には、学校・チーム単位で形式を揃える必要がある」と思い、
- ▶ 仕方なく望んでいないユニフォームを着用しているケースがあった。

【競技規則】

- ◆ ルールブックー TR-5 服装、競技用靴、アスリートピブス
 - 5.1 全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する
- ◆ ハンドブックー 競技者係 実施要領 ③留意点 (5) 服装
 - 全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者はランナーの認識をなくすために、同一のユニフォームを着用する。（短パン・スパッツの違い等は許容範囲）



△選手により、異なるタイプのユニフォームを選択している例

- ▶ 同じチームであることが分かれれば、ユニフォームの形式は問いません。（ブルマの選手、スパッツの選手、セパレートの選手、ランニングシャツの選手が混在していても、デザインや配色が同一であれば、ルール上は問題ありません）※駅伝も同様



3. 助力について（ロードレース）

【背景】

特に駅伝競走において、レース中の負傷（疲労骨折や捻挫など）や疾病（低体温・低血糖など）により、通常歩行が困難な状況の中で、競技を継続し危険な場面が生まれている。

【競技規則（助力に関するルール）の再確認】

- ・転倒や意識混濁、疾病等により明らかに通常歩行や競技続行が困難となり、立ち止まりや機転等の行動を行う競技者に対して、**審判員や公式の医療スタッフ**が声掛けを行うことは、**助力とは見なさない。**
- ・本人がなお競技続行の意思を持っていても、競技者の生命・身体保護の観点から**審判長もしくは医師の判断で競技を中止させることができる。**
- ・審判員や公式の医療スタッフが一時的に介護するために競技者の身体の一部に触れることは、**助力とは見なさない。**
- ・**審判長の権限を技術総務、競走審判員、監察員等に委任しておく必要がある。**



- ▶ 競技規則を再確認のうえ、**競技注意事項や申し合わせ事項での周知**、および**監督会議等でのご説明**をお願いいたします。
- ▶ **医療体制・緊急時の連絡系統の確認**および**審判会議等での周知徹底**に、ご協力をお願いいたします。
- ▶ 医師を含む医療員を複数名任命し、**緊急医療体制（AED配置を含む）を整備**の上、競技会の開催をお願いいたします。

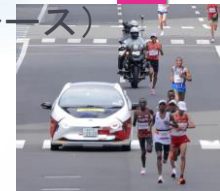


4. 運営車両の安全対策（ロードレース）

【背景】

陸連主催大会「福岡国際マラソン2023」のレースにおいて、コース折り返し地点で選手が折り返した際、大会運営車両が選手と接触し、選手が転倒、右ひじの骨が折れる怪我をするという事故が発生。

その他の大会においても、中継バイクやカメラ車、運営車両が選手に近すぎるといった声や、選手や関係者からあがっており、ロードレース大会での安全対策を改めて確認する必要がある。



- ▶ 安全運転を徹底するため、大会運営車両関係の会議などを実施する場合は、「**安全対策**」に関する説明を行い大会運営車両の**ドライバーに対して安全な運転を行うよう研修を徹底**する。
- ▶ 大会運営車両を発進・運転・停止する際は、同乗している競技役員や運営スタッフと確認のうえ、前後左右の選手や沿道観客に注意を払う。（**ドライバー一人で判断をしないこと**）また、大会運営車両が待機する場所では、**競技役員や運営スタッフを配置し、安全確認と誘導合図を行う**
- ▶ 随行車両が出場選手の妨げにならないよう、**審判長車などから車列への指示・連携がとれる通信手段を準備**するとともに、万が一の事故等が発生した場合、**速やかに対応できる体制を整備**し、競技役員や運営スタッフに内容を周知徹底する。